

# 統計調査ニュース

平成29年（2017）6月

No.367



## 統計ダッシュボードの提供開始 —簡易なデータ利活用を実現—

総務省統計局長 會田 雅人

現在、政府統計は、政府統計共同利用システムに登録され、政府統計の総合窓口（e-Stat）により提供されています。

e-Statには、約70万という膨大な数の統計表が収録されており、細かい区分で集計された結果を取得することも可能です。しかしながら、調査ごと、集計結果表ごとに登録されているため、調べたい項目がどの統計調査によるものか、公表している機関がどこか等、ある程度専門的な知識がないとデータの取得が難しい面もあります。

そこで、総務省統計局では、グラフなどにより統計データを分かりやすく提供する取組の一環として、「統計ダッシュボード」システムを開発し、平成29年5月12日から提供を開始しました。

ダッシュボードとは、自動車等の計器盤のように、複数の情報を

一覧できる仕組みのことをいいます。「統計ダッシュボード」もトップ画面において複数の統計の最新情報をグラフ等により一覧表示しています。

このシステムには、よく利用されている約5000の統計データを、「人口・世帯」や「労働・賃金」など、17分野に区分して収録しています。調べたい情報を分野から選択することができ、統計調査名や調査実施機関等が分からなくても簡単に検索することができます。

さらに、月例経済報告で取り上げられるような主要な統計データを中心に、55のグラフを提供しています。

これらのグラフは、関連する統計データの追加・削除や、時系列の表示範囲の変更など、利用者の方の用途に合わせて加工することができます。例えば、地域別の結果が

公表されている統計データであれば、時系列のグラフと地域別のグラフを簡単な操作で切り替えることも可能です。

このように、統計になじみのない方でも簡単に利用していただけるシステムであることに加え、これらのデータは全て WebAPI\*でも公開していますので、統計を頻りに利用される方にも活用していただけるのではないかと思います。

ここで御紹介したものの以外にも便利な機能を搭載しておりますので、是非御活用ください。今後、収録するデータの拡充等、利便性の向上を継続的に図っていきます。

「統計ダッシュボード」により、統計データの利活用が更に促進され、新たなイノベーションの創出につながることを期待しています。

\*Application Programming Interface: 手作業によることなく、プログラムが自動でデータを取得できるようになる機能



統計ダッシュボード トップ画面

<http://data.e-stat.go.jp/dashboard/>

グラフ画面の例



地域別

時系列

### 目次

統計ダッシュボードの提供開始—簡易なデータ利活用を実現—	1	統計におけるオープンデータの利活用を推進するため	
家計調査(貯蓄・負債編)平成28年(2016年)平均結果速報の概要	2	自治体総合フェア2017に出展しました!	
第65回統計グラフ全国コンクール作品の募集をしています	3	「明日への統計2017」を御活用ください	6
「誰でも使える統計オープンデータ」開講中!	4	中核市発とうけい通信④	7
モンゴル国家統計局との協力の覚書の署名	5		

# 家計調査（貯蓄・負債編）平成28年（2016年）平均結果速報の概要

家計調査では、世帯の収入や支出のほかに貯蓄・負債の保有状況を調査しています。この度、貯蓄・負債編の平成28年（2016年）平均結果速報を平成29年5月16日に公表しましたので、その概要を紹介します。

## 二人以上の世帯における1世帯当たり貯蓄現在高は1820万円と、前年に比べ0.8%増加し、4年連続の増加

2016年平均の二人以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は1820万円で、前年に比べ15万円、0.8%の増加となり、4年連続の増加となりました。（図1）

また、貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値（1820万円）を下回る世帯が約3分の2を占めています。（図2）

図1 貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

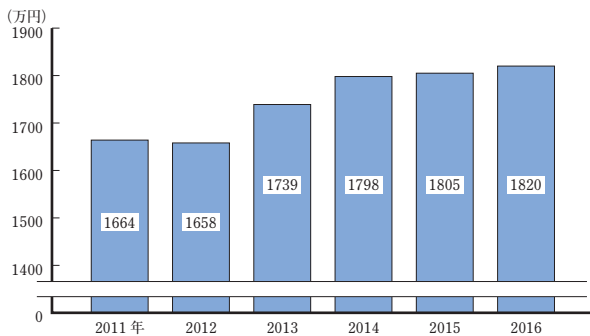
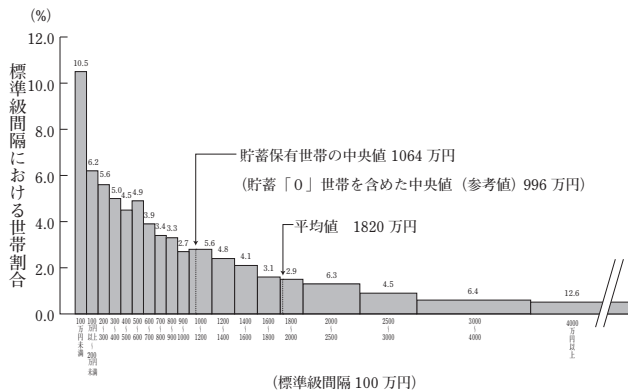


図2 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）  
— 2016年 —

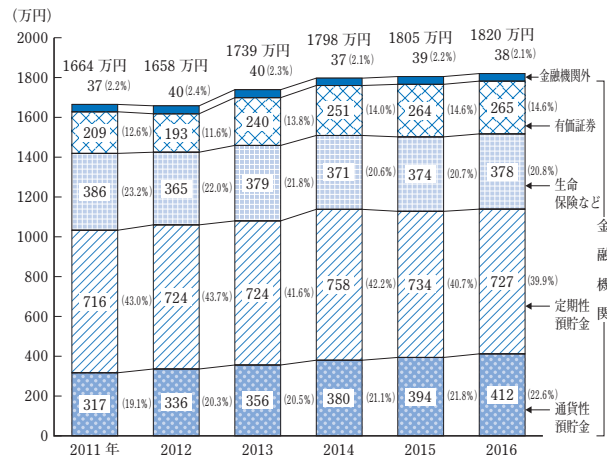


(注1) 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

## 貯蓄の種類別にみると、通貨性預貯金は8年連続の増加、定期性預貯金は2年連続の減少

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高の推移をみると、通貨性預貯金及び「生命保険など」が前年に比べ増加となっています。このうち通貨性預貯金については、前年に比べ18万円、4.6%の増加となり、8年連続の増加となりました。一方、定期性預貯金は前年に比べ7万円、1.0%の減少となり、2年連続の減少となりました。（図3）

図3 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



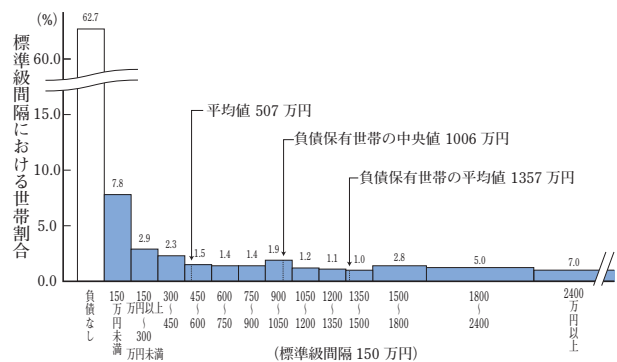
(注2) ( ) 内は、貯蓄現在高に占める割合

## 二人以上の世帯の負債現在高は507万円と、前年に比べ8万円、1.6%の増加

二人以上の世帯における2016年平均の1世帯当たり負債現在高（平均値）は507万円で、前年に比べ8万円、1.6%の増加となりました。また、負債の種類別負債現在高をみると、負債現在高の約9割を占める住宅・土地のための負債は452万円で、前年に比べ6万円、1.3%の増加となりました。

二人以上の世帯の負債保有世帯に限ってみると、負債現在高の平均値（1357万円）を下回る世帯が約6割を占めています。また、負債保有世帯を二分する中央値は、1006万円（前年976万円）となりました。（図4）

図4 負債現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯）  
— 2016年 —



(注3) 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

# 第65回統計グラフ全国コンクール作品の募集をしています

統計グラフ全国コンクールは、国民の皆様には、統計グラフの作成を通じて、日常生活の中で統計を利用することの有用性を知っていただくとともに、統計調査への理解を深めていただくことを目的に、昭和28年から実施しており、今年で65回目を迎えます。

このコンクールは、(公財)統計情報研究開発センター(以下「開発センター」といいます。)及び総務省が主催し、文部科学省等の後援及び協賛により、10月18日の「統計の日」の関連行事として実施しています。

平成28年(第64回)は、全国の小・中学生から一般の方々まで、26,284作品に及ぶ多くの応募がありました。

入賞作品のうち、特に優秀な作品には「総務大臣賞」が授与され、平成28年は、第4部(中学校の生徒)から「ふるさと西米良村を未来へ残そう!」が受賞されました。

平成29年の「総務大臣賞」を含む特選受賞作品の表彰は、11月13日(月)に「国立オリンピック記念青少年総合センター」(東京都渋谷区)で開催される第67回全国統計大会において、入選作品の表彰は各都道府県で開催される地方統計大会、統計功労者表彰式等において、それぞれ行う予定です。

また、58点の特選・入選作品は、上記の全国統計大会のほか、「統計データ・グラフフェア」(10月28日(土)～29日(日)新宿駅西口広場イベントコーナーにて開催)等の会場において展示予定です。

今年も次のように作品の募集をしています。

皆様の創意と工夫に満ちた作品をお待ちしております。

## 応募資格

- 第1部…小学校1年生及び2年生の児童
- 第2部…小学校3年生及び4年生の児童
- 第3部…小学校5年生及び6年生の児童
- 第4部…中学校の生徒
- 第5部…高等学校以上の生徒、学生及び一般
- パソコン統計グラフの部…小学校の児童以上

## 課題

課題は各部とも自由です。

ただし、小学校4年生以下の児童の応募については、児童が自ら観察又は調査した結果をグラフにしたものとします。

## 規格

各部とも、B2判(仕上げ寸法72.8cm×51.5cm,用紙は貼り合わせでもB2判であれば可)です。

## 提出先・締切日

提出先は、各都道府県統計協会又は各都道府県統計主管課となります。

締切日は、各都道府県で異なりますが、おおむね9月上旬となっています。

## 入賞区分・賞等

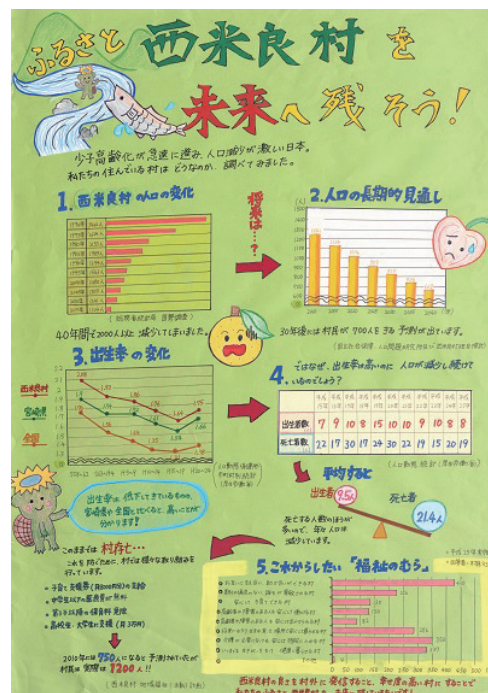
各部ごとに特選、入選及び佳作作品が選定され、特選の中から、特に優秀な作品に対しては、「総務大臣賞」、「文部科学大臣賞」等が特別賞として贈られます。

## 締切日や応募方法等の問合せ先

締切日や応募方法等の詳細は、開発センターのホームページ(<http://www.sinfonica.or.jp/tokei/graph/index.html>)を御覧いただくか、同センターまでお問い合わせください(連絡先:03-3234-7478)。

## 第64回総務大臣賞受賞作品

「ふるさと西米良村を未来へ残そう!」



宮崎県西米良村立西米良中学校3年(受賞時)  
吉丸 日葉さん

# 「誰でも使える統計オープンデータ」開講中！

“データサイエンス”力の高い人材を育成するための取組として、ウェブ上で誰でも参加可能なオープンな講義データサイエンス・オンライン講座の第3弾「誰でも使える統計オープンデータ」を6月6日に開講しました。

この講座は、統計オープンデータを活用したデータ分析を、受講料無料で誰でも学ぶことができます。7月中旬まで受講登録が可能ですので、是非、御活用ください。

第1週は、e-Statの統計データを活用し、Excelを実際に使いながら、データ分析をする上での注意点等を解説します。


《第1週講師：西内 啓ほか》

## マッシュアップとは

複数のデータを組み合わせると  
新たな知見を得ること

e-Statには繋ぎ合わせると面白い  
「複数のデータ」がいくつも

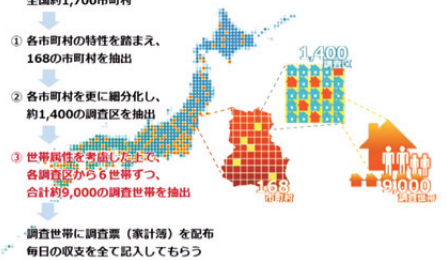
今回は産業構造と平均所得の関係を



第2週は、利用頻度の高い労働力調査及び家計調査の基礎知識や調査結果の利用の際のポイント等を解説します。


《第2週講師：中村 耕太郎ほか》

## 家計調査の流れ（調査世帯の抽出）



- ① 各市町村の特性を踏まえ、168の市町村を抽出
- ② 各市町村を更に細分化し、約1,400の調査区を抽出
- ③ 世帯属性を考慮した上で、各調査区から世帯を抽出、合計約9,000の調査世帯を抽出

調査世帯に調査票（兼計簿）を配布  
毎日の収支を全て記入してもらおう



第3週は、統計データと地図を組み合わせた統計GIS(jSTAT MAP)の使い方を、保育施設及び避難施設の配置を検討する事例を通じて、解説します。

《第3週講師：亀本 薫ほか》


## GISとは

### GIS (Geographic Information System の略)

コンピュータを使って色々な地理情報を視覚的に表示し、管理・分析するシステムのことです。

**実世界をGISで表現すると何ができるのか？**

地図上に「道路・建物」等を表示し、  
その上に「人口・世帯」等の統計データ、  
「商業施設・防災施設」等の位置情報を重ね、  
それぞれを可視化することにより、  
地域の特色や問題がよく分かり、  
総合的な「マーケティング、災害対策」等を  
検討する際に役立ちます。



第4週は、統計APIの仕組みや統計オープンデータの活用について、地方公共団体及びビジネスでの活用事例を紹介します。

《第4週講師：小谷 祐一朗ほか》

## 佐賀県の事例

### データ分析に基づく政策立案手法の導入

取組(実践)「99サガネット」


医療機関への搬送時間短縮  
救急車にタブレット配備 → データで現場を可視化

⇄

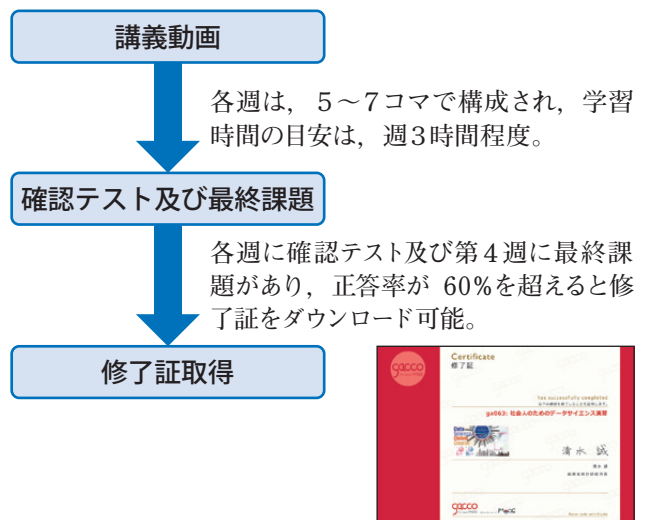
研修(理論)

人材育成  
理論に加えてケーススタディ → 他業務での活用促進

相乗効果



《受講の流れ》



また、統計オープンデータの活用事例については、講義で紹介した事例以外にも、インタビュー形式で紹介していますので、是非、御覧ください。



データサイエンス・オンライン講座ページ  
<http://gacco.org/stat-japan3/>

